職員研修　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　令和　年　月　日

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　○○小保健安全部

食物アレルギーの対応シミュレーション研修

１　ねらい

（１）アナフィラキシーショックが起こり、救急隊が到着するまでの間、学校としてできる適切な対応を理解した上で、全職員が実施できるようにする。

（２）児童が安全に学校生活を送れるように教職員の危機管理意識を高め、シミュレーション演習を通して教職員間の連携の大切さを意識づける。

（３）エピペンの正しい使い方を理解する。

司会（養教）

１　開会の言葉

２　講義（学校医・養教）

３　シミュレーション演習

４　リアルシュミレーション

５　振り返り

６　講評（学校医）

７　謝辞（校長）

８　閉会の言葉

２　日　時　令和　年　月　日（　）１３時３０分～１４時３５分

　　　　　　※６５分で設定しているが、講義・動画視聴の時間を調整

　　　　　　　することにより、時間短縮が可能。

３　講　師　学校医　○○○○

　　　　　　（講師を呼ばない場合は、講義の一部・講評を削除する）

４　場　所　○年○組教室（エピペン所持児童のいる学級）

５　準備物　パソコン、テレビ、エピペン（２０本借用※1）、持出用救急バッグ、

心肺蘇生練習用人形（４台借用）、ＡＥＤトレーニング機器（４台借用）、

６　参加者　○○小教職員○○名　学童職員○名　計○○名

７　研修の流れ 　　　　　　　　　　　　　　　　　　 ＊事前・事後アンケートの実施　進行：養教

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| １　はじめの言葉 | 13：30 | （養教） |
| ２　講義　　（30分） | 13：30 | ① 児童の実態および状況（主治医の指示、保護者の考え）  ② 動画視聴※2（20分）しながらアナフィラキシーショックの対応方法の確認  ・実際に、見て、触って、やってみる。一人一本エピペン準備  ・エピペン使用上の留意事項・禁忌事項の確認  ③ 組織的対応における役割分担の確認 |
| ３　シミュレーション演習  【役割分担の確認】  （15分） | 14：00 | 実際に想定してアクションカードを使用し、役割分担をして演習する。  班ごとにローテーションをして、全員が必ず全ての役割を行う。【１班５人×４班】  ①第一発見者（観察）②教職員A（準備）③教職員B（連絡）④教職員C（記録）  ⑤教職員D（他児童対応・救急車誘導）　　　　　　　　管理職（総括指示） |
| ４　リアルシミュレーション　　　（10分）  ＊役割のない先生は、傍観者として周囲で観察し、気付いたことを別紙に記入する。 | 14：15 | 実際に現実に起きることを想定した演習を行う。  ①第一発見者（担任）②教職員A（　　）③教職員B（　　）④教職員C（　　）⑤教職員D（　　）⑥管理職（校長）⑦消防士（　　）⑧児童A（　　）  児童A（食物アレルギーのある児童）に給食後、声がかすれ、持続する強い咳込みがみられた。児童Aは「先生、苦しいです」と担任に訴えた。  発見者　・「○○さんが倒れたと言って（隣の教室の先生）○○先生を呼んできて」と他の児童に呼びに行かせる。※３  　　　　・校内電話で職員室へ応援連絡する。「○○さんが倒れました。教頭先生、校長先生、近くにいる先生、来てください」  　　　　・到着した教職員Aに「AEDを持ってきてください」と依頼する。  教職員B・救急車を要請する。「○○小学校です。○年○○さんにアナフィラキシーと思われる症状が出ています。・・・・」  教職員D・他の児童へ対応する（別教室へ移動させる）。  教職員C・教室にある記録用紙を使用して記入する。記録した内容を救急隊員に伝えるかコピーを渡す。  教職員B・保護者へ連絡する。「Aさんにアナフィラキシーと思われる症状が出ていたので救急車を呼びました。すぐに学校に来てください。病院が分かれば、すぐにまた連絡します。」  管理職　・現場に到着後、リーダーとなる。役割を確認した後、指示を出す。  発見者（教職員A）　・児童Aの状況に応じて、エピペンを使用する。  （心停止の場合には、直ちに心肺蘇生を行い、AEDを使用する）  救急隊員・教職員C（記録者）から記録した内容を聞き取る。 |
| ５　振り返り　（5分） | 14：25 | 感想、意見交換を行う。  （良かった点、改善点などをお互いに出し合う） |
| ６　講評　　　（3分） | 14：30 | （学校医） |
| ７　謝辞　　　（2分） | 14：33 | （学校長） |
| ８　おわりの言葉 |  | （養教） |

８　評価

（１）食物アレルギーで倒れている傷病者を発見したときの対応の手順を知ることができる。（知識理解）

（２）救急車が現場に到着するまでに、あらかじめ決められた役割分担を基にエピペン、ＡＥＤの使用方法及び心肺蘇生法を理解し、適切かつ迅速に対応することができる。（実践習得）

９　その他

※１エピペン無料：URL：[練習用トレーナーの無償貸与｜教職員・保育士・救急救命士の皆様｜アナフィラキシー補助治療剤 エピペン (epipen.jp)](https://www.epipen.jp/teacher/trainer.html) （　※　返却時の送料は学校支払い。３・４月２０本まで・その他の月は５０本まで貸し出し可能）

※２　参考使用動画：URL：[学校におけるアレルギー疾患対応資料：文部科学省 - YouTube](https://www.youtube.com/watch?v=caZv1Zwznis)

※３　児童に連絡を依頼する場合の注意事項「養護教諭のためのフィジカルアセスメント２」より一部抜粋

　　　医療機関に搬送された子どもや、その周囲で事故に遭遇した子どもたちが、その事故での体験がトラウマにならないよう、緊急時であっても細やかな配慮ある対応を心掛け、その後の学校生活に支障がないようフォローが必要となる。

コラムより―子供に連絡を依頼する事の是非―

（前文略）子どもに連絡を依頼して突然死を防ぐことができた場合はよいが、不幸にして助からなかった場合、役割を与えられた子どもは自分を責めることになってしまいかねない。また、子どもの連絡は確実性に欠ける。事故発生時には、子どもに連絡に行かせればよいと安易に考えてはならない。（中略）確実性と心の負担軽減のために、連絡等には複数人で行かせたい。さらに心理的ケアを十分に行い・・・。